

## 4 評価の観点の設定について

「総合的な学習の時間」において、どのような評価の観点を設定しているか質問した。

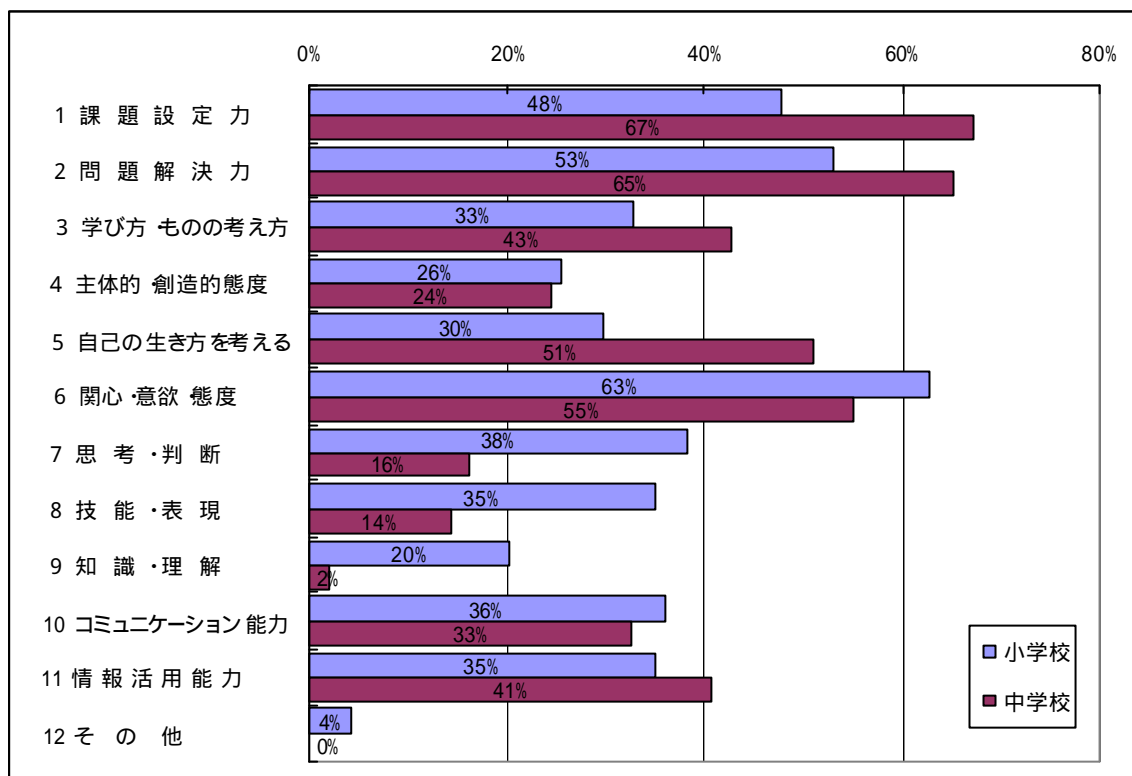


図5 「総合的な学習の時間」における評価の観点（複数回答）

### (1) 結果

小学校では、「関心・意欲・態度」が63%と最も割合が高く、次いで、「問題解決力」が、53%、「課題設定力」が48%の回答があった。また、中学校に比べて教科と同様の観点を設定している傾向が見られ、「思考・判断」が小38%、中16%、「技能・表現」が小35%、中14%、「知識・理解」が小20%、中2%と、差が大きく見られた。

中学校では、「課題設定力」が67%「問題解決力」が65%と割合が高く、次いで「関心・意欲・態度」が55%となっている。特に、「自己の生き方を考える」を挙げた回答は51%で、小学校が30%であったのに比べるとかなり割合が高くなっている。

### (2) 考察

これら評価の観点は、先の育てたい資質・能力と関連して設定されていることが分かり、「課題設定力」や「問題解決力」、学習や対象への「関心・意欲・態度」の育成に一層重点が置かれている様子が見える。また、小学校に比べて中学校の方が「自己の生き方を考える」を観点に設定している割合が高く、これは発達段階に応じたものと考えられる。